

イエス団報

いとしき者のために

理事 黒田 絢



イエス団憲章が制定されて六年目になります。長年指導していただいた今井先生から、新理事長に木村先生をいただき、事務局も川田さんのお陰でコンピュータ導入により全施設の書式がすっきりと整いました。今3人体制ですべての面倒を見ていただいています。若手の企画委員会、経営委員会、施設長会などが夫々の立場で動き始めました。理事会も少しずつ若返っています。

賀川先生と面識の無い方が多くなってきた今、賀川精神をどのようにに継承すれば良いか、大きな課題ですが、献身100年に向けての歩みが始まりました。各施設の100年目からの中期5カ年計画が発表され既に始まっていることでしょう。

私は03年の春、園長を退職して、若い人に全権を委ねました。賀川先生から「徳島に行つて欲しい。故郷伝道の為に教会(保育園)を建てたから」と言われて一九五六年に赴任しました。以来47年。主任保母から園長の責任を持つようになりましたが、若い職員や保護者との感覚、何より大事な子ども達への理解にズレが生じていることを痛感したからです。

時代の流れはどんどん移っていきます。二十年も前は「国の税金から出ている措置費をキリスト教保育に使つてはいけない」と厳しくチェックされたことがありました。県、市町村でその度合いや解釈は違つていたようですが、監査対応の情報交換などをしたものでした。

「社会福祉法人の定款にキリスト教という文言が入つていてはいけません」と言われて、軒並み変更届を出した施設があつたとも聞きました。勿論イエス団にも強い風当たりがありました。そのため定款そのものが通らないために新しい施設や事業が定款に記載されず

に何年も待たされました。今、心の問題がクローズアップされています。「福祉」とは福に幸い、祉に幸いという言葉で、幸せを求め実践する施設が私たちのイエス団です。賀川先生を動かしたキリストの教えは難しいものではありませんし、大それた立派なことを望んでもいません。一人ひとりの心の中に教えを刻み込んで自分出来ることをするだけなのです。

心に思つていることが言葉になつて口から出、行いとなって表れるとすれば、心の拠りどころをまず整えることが大切でしょう。私たちの周りには、幼な児、老人、体の不自由な方、保護者の方々が支えを待っています。一人ひとり小さいけれど、イエス団全体が持っている力はとても大きいのです。賀川先生献身一〇〇年記念を控えて、法人につながる一人ひとりの決意と変身を望みます。小さいところから始めましょう。

最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。(マタイによる福音書第25章40節)

◆発行者 黒田 絢
◆編集者 黒田 絢
◆発行所 神戸市中央区
百舌通 5-5-20
社会福祉法人
イエス団
TEL:078-221-9565
FAX:078-221-9566

二〇〇四年度 法人の動き

● 社会福祉法人の動き
一、理事会の報告(定員11名、現員11名)

今年度は計六回の理事人会を開催し、27の議案について協議しました。
① 4月28日 次期理事会の構成など三議案
② 5月20日 次期理事会の組織の関して
③ 5月21日 03年度の事業報告、決算など七議案
④ 7月27日 組織に関する件、企画委員会の答申に関する件など六議案
⑤ 12月10日 定款細則、中長期計画、各施設上程議案など七議案
⑥ 3月11日 04年度補正予算、05年度事業計画・予算など三議案

二、評議員会の報告(定員27名、現員23名)
今年度は二回の評議員会を開催し、10の議案について討議しました。
① 5月21日 03年度の事業報告、決算など七議案
② 3月11日 04年度補正予算、05年度事業計画・予算など三議案

三、常任理事会の報告(二回)
① 4月16日 次期理事会、評議員会の構成について
四、経営会議の報告(三回)
04年度より、常任理事、ブロック長、本部事務局幹事で経営会議を開催。法人の課題について協議を

① 9月16日 組織に関する件、賀川豊彦献身百年記念など四議案
② 11月22日 定款細則、中長期計画、人事委員会など六議案
③ 1月14日 施設長会決議について、一般事業主行動計画、人事委員会など六議案
五、企画委員会の報告(五回)
企画委員も多忙な日常の業務外に五回の委員会を開催し、研修の企画、運営上の諸問題についての対応策の立案等に取り組みました。
① 4月19日 五議案 ② 6月30日 四議案 ③ 9月9日 三議案
④ 11月25日 五議案 ⑤ 2月3日 四議案
六、編集委員会の報告
イエス団報 再刊7号を04年9月1日に発刊しました。

七、研修会の報告
今年度は理事長、常務理事、企画委員のご協力を得て、以下の研修会を開催しました。
① 第八回会計研修 04年7月22日 勤労会館(46名参加)
② 第九回会計研修 05年2月9日 勤労会館(33名参加)
③ 雲柱社合同施設長研修 04年11月8、9日 富士ゼロックス総合教育研究所(雲柱社15名・イエス団28名参加)
④ 新任職員研修 三月二十二、二十三 日 コープこうべ協同学苑(新任65名、講師、理事、スタッフ6名参加)
⑤ 新任フォローアップ研修 6月

① 9月16日 組織に関する件、賀川豊彦献身百年記念など四議案
② 11月22日 定款細則、中長期計画、人事委員会など六議案
③ 1月14日 施設長会決議について、一般事業主行動計画、人事委員会など六議案
五、企画委員会の報告(五回)
企画委員も多忙な日常の業務外に五回の委員会を開催し、研修の企画、運営上の諸問題についての対応策の立案等に取り組みました。
① 4月19日 五議案 ② 6月30日 四議案 ③ 9月9日 三議案
④ 11月25日 五議案 ⑤ 2月3日 四議案
六、編集委員会の報告
イエス団報 再刊7号を04年9月1日に発刊しました。

七、研修会の報告
今年度は理事長、常務理事、企画委員のご協力を得て、以下の研修会を開催しました。
① 第八回会計研修 04年7月22日 勤労会館(46名参加)
② 第九回会計研修 05年2月9日 勤労会館(33名参加)
③ 雲柱社合同施設長研修 04年11月8、9日 富士ゼロックス総合教育研究所(雲柱社15名・イエス団28名参加)
④ 新任職員研修 三月二十二、二十三 日 コープこうべ協同学苑(新任65名、講師、理事、スタッフ6名参加)
⑤ 新任フォローアップ研修 6月

① 9月16日 組織に関する件、賀川豊彦献身百年記念など四議案
② 11月22日 定款細則、中長期計画、人事委員会など六議案
③ 1月14日 施設長会決議について、一般事業主行動計画、人事委員会など六議案
五、企画委員会の報告(五回)
企画委員も多忙な日常の業務外に五回の委員会を開催し、研修の企画、運営上の諸問題についての対応策の立案等に取り組みました。
① 4月19日 五議案 ② 6月30日 四議案 ③ 9月9日 三議案
④ 11月25日 五議案 ⑤ 2月3日 四議案
六、編集委員会の報告
イエス団報 再刊7号を04年9月1日に発刊しました。

七、研修会の報告
今年度は理事長、常務理事、企画委員のご協力を得て、以下の研修会を開催しました。
① 第八回会計研修 04年7月22日 勤労会館(46名参加)
② 第九回会計研修 05年2月9日 勤労会館(33名参加)
③ 雲柱社合同施設長研修 04年11月8、9日 富士ゼロックス総合教育研究所(雲柱社15名・イエス団28名参加)
④ 新任職員研修 三月二十二、二十三 日 コープこうべ協同学苑(新任65名、講師、理事、スタッフ6名参加)
⑤ 新任フォローアップ研修 6月

新潟中越地震救援活動報告

賀川先生は関東大震災の際、いち早く駆けつけ、救援活動に当たりました。イエス団自身も阪神淡路大震災の際、全国の皆さんから人的支援をたくさんいただきました。賀川精神を引き継ぐ法人施設として、新潟県中越地方で被災された多くの皆さんのお手伝いができないかと「救援ボランティア」を募集しました。応募してくださった28名の職員が直接参加。十日町教会の会堂をお借りして、1月23日から3月31日までの68日間、救援活動をいたしました。参加者の感想文を紹介して報告に換えさせていただきます。報告書がご希望の方は、本部事務局までお申し出ください。

活動に参加した職員方の思いに感謝いたします。また宿泊所を提供してくださった十日町教会には大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。
(文責・黒田信雄)

辻 早苗
愛隣デイサービスセンター
“雪かき” “川口ボランティアセンター”からの呼びかけから離れ、初めて、川西町にある「さまさまな理由で学校に通うことに変な思いをしている小学生・中学生のため」のこやかルーム（以下ルーム）に訪問させてもらうことになり、情報が少ない中でどうなるのだろうかと不安な初日となった。とにかく、行って状況を感じ、丁寧に人に出会いたいということを中心に決めて。

ルーム初日、まず小海さん（自称「指導しない指導員」）から説明を受ける中、子どもたちが1人2人と到着。マンガを早々と手にとり、ソファで読み始める。途中、自己紹介を始めるも、きっかけがなかなか見つからず、距離が保たれる。自分は何のためにここにきたのか、何をしにきたのかと問いかけ、前日に心がけようとしていたことを思いなおし、勇気をもって話しかけるとしつかり応えてくれ

た。“人”とのつきあいが苦手だから学校に通ってないのだろうか？話しかけても相手にされないのだからかと自分勝手な思い込みで閉じ込めてしまっていたら、出会うことができなかったらと思うと怖かった。

昨日より今日、今日より明日と受け入れられる部分が増えるにつれ、楽しさも2倍3倍にふくれあがった。さらに小海さんの子どもたちへの接し方がとても温かく、人と人との信頼関係の上で成り立っているルームでの活動に参加させてもらうことができ感謝であった。

また家族の方からは「子どもたちにとって、知らない人との出会いも大切なことだと思つてあげたい」とおっしゃって頂き、受け入れられ、再び感謝。子どもたちとも最終日は雪投げでもりあがり、出会い、子どもたちのやさしさに触れ、触れ合い、交流したことが、“おもしろかった”と頭の片隅にでも残っていてもらえればと思った。京都に戻っても、どんな

栗井 健
真愛ホーム
川口町のボランティアセンターで活動した5日間は「元氣もりもり隊」に参加していました。泉水小学校（センターからくるまで10分程）にある集会所「いこいや」とグラウンドにある仮設住宅（10棟100名程）の巡回を行なっていました。水くみやちよつとした雪かきはありましたが基本的な活動は、住人の方との話し相手です。

移動中、道をたずねようと思っただけであるにもかかわらず、「汗飲んできな」と、交わらせてもらったり、たつたわづかな雪かきの時でさえ、「ありがとう」と声をかけてもらったりと、震災をきっかけに（何とも心苦しい思いはするが）様々な出会いの場があり、その大切さ、そこで生じるプラスのエネルギーがあることを感じさせられた。今後も、自分の現場にもどって、ここで感じたことを忘れず、出会い一つづつつけていきたいと思う。

十日町教会のみなさま、ありがとうございました。

新任職員フォロアップ研修開催！

六甲山中で学びの二日間

一麦保育園 岩崎栄美

不安をかかえています。特に年配の方、お年寄りの方にとっては、非常にストレスの原因になっているように感じました。

阪神大震災と同じように復興には時間がかかると思われ、物質的な支援は、これからは必要とされず、ただ現在19年ぶりの大雪により除雪も難航し、建物・住宅の改修、建設も遅れているようです。実際に、雪の影響で傾いていた家屋の倒壊もありました。土地的に雪を意識しての復興になると思いました。

そして、住人の方たちへの精神的な支援が必要と思われ、私の住んでいる神戸でもそうでしたが震災で新しい生活を余儀なくされた方にとっては家屋や家財などの財産の消失により、大きな失望と、これからの人生、生活について大きな

新任職員フォロアップ研修に参加させて頂き、ありがとうございます。今回の研修に参加し、去年の新人研修を思い出しました。あの時は何もかもが初めてで、不安で一杯だったので、長尾先生のミッションメントにも、あまり積極的に参加できていませんでした。しかし今回は、前回とは違い、今まで

精神的な支援として「元氣もりもり隊」はボランティアが行なっていますが、長期的な支援が必要とされる為、短期間のボランティア活動では限界があり住人の方たちも混乱してしまうと思います。これからは行政の施策のひとつとして考え、続けていければと思います。

仮設の住人ももとより、全ての町民に対しても精神的な支援が必要とされている、必要としていると感じました。

住人の方、ボランティアの方とも仲良くなり今回の経験は貴重な体験になりました。機会があれば、今度は遊びに行きたいです。

園で学んできたことや経験してきた事が自信に繋がっているのか、積極的に参加することが出来た。他の園の方と意見を交換することが出来、自分自身が悩んでいた事、他の方が悩んでいる事を分かち合え、とても良い刺激になりました。皆同じ様な悩みを抱えているのだという事を知り、私独りが悩んでいるのではない、頑張ろうという気持ちになることが出来ました。ミッションメントでは、自分に足りない部分が見え自分（第四面上段に続く）



高められる良いライバル、そして良い同志として、イエス団を盛り上げていけるよう、頑張りたいと思います。自分が新人だった頃、つまり初心を忘れることなく、さらに、今回学んだ沢山の事をしっかりと役立て、日々の保育に取り組んでいこうと思えます。参加させて頂けて本当に勉強になりました。ありがとうございました。

天使の園保育園 原ひとみ

(第三面下段より)
見つめる良い機会になりました。また、二日目のロールプレイでは、今、自分が困っていることなどの身近な例を挙げ、実際にそれぞれの立場で演じました。そうすることで、相手の気持ちになって考えられ、今まで考え付かなかったことや、気付かなかった部分に目を向けることが出来ました。私はこれまで、自分の保育士としての気持ちしか考えられていませんでしたが、相手と一緒に考えていくことの大切さを改めて実感することができたと思います。大切に、賀川先生の「いと小さき者に仕える」精神を思い出し、自分を省みるものが出来ました。今回、あの日に一緒に研修を受けた仲間たちとの、巡り合わせに感謝します。そして彼らと共に日々成長し、お互いを

この研修に参加する前は、不安と緊張と戸惑いでいっぱいだった。私にとっては大阪で初めての研修という事もあり慣れない土地にも不安があった。だが研修所について2時間経つ頃にはその不安も薄れ、長尾先生のアイスブレイキングともいえるグループワークによって緊張と見知らぬ人たちという意識を打ち溶かすことが出来たと感じた。保育士という仕事は小さい頃からの夢であり、生涯の仕事として選んだ道である。乳児の保育を希望して今なお1歳児の担任として仕事が出来るのは幸せなことだと思っている。しかし、現実には日々の保育に追われゆつくりと今の自分を「ふりかえる」ことが出来ていなかった。この研修では

“ふりかえり”を自然環境の良いところで体験学習しながらゆつくりと行えるものであった。

保育の研修以外にも様々な内容の研修に参加させていたが、実技メインのものや講習会が多く内面の体験学習は初めてで、課題を探し中の自分にとっては有意義な時間を過ごせたと思う。同じような立場の人が、同じような悩みを抱えてこの場に集まっているということ、話もしやすく自分だけが悩んでいるのではないのだと知ることが出来た。

またロールプレイというものをこの研修で初めて知った。自分たちのグループの困った事例を別のグループが演じ、観察し報告していくと言うものだったが役になりきることでその役の気持ちを考えてことが出来たし、第三者として観察することで現場では分からなかったことも見えてきた。このロールプレイを通して相手の気持ちを考えることの大切さ、難しさがよく分かった。

イエス団の施設 ⑫
保育所

野の百合保育園

- ◎住所／京都市伏見区向島二の丸151
- ◎創立／一九七八年四月一日
- ◎定員／九〇名
- ◎職員／二十一名
- ◎施設長／恵 大一郎



◆◆◆DATA◆◆◆
最奇の交通機関:下車
TEL:075-622-8545 FAX:075-622-8546

78年4月、高層住宅が立ち並ぶ向島ニュータウンの一角に、障がいのある乳幼児の通園施設「空の鳥幼児園」とともに、「野の百合保育園」は設立されました。現在は、障がいのある人たちの生活をサポートする「愛隣館研修センター」とともに、同じ敷地にある3施設を総称して「愛隣館」と呼んでいます。

当保育園は、「一人ひとりを大切に」を基本理念に、子どもたちの自ら育とうとする姿を見守り、子どもたちの中に自主性、主体性、意欲が豊かに芽生えるような環境設定を心がけています。そして、保育士が愛情豊かに子どもたちを包み込むことによって、安心して生活できる環境が整い、結果として「自分は自分であっていいんだ、自分のことが大好き」という自己肯定感がはぐくまれることを願っています。

《編集後記》
※イエス団本部は、今年4月から三人体制となりました。制度が複雑となり、また法人が関係する施設や事業が多岐に渉るようになったからです。それぞれの施設で毎日の業務に終われがちになりますが、同じ法人に働く者として、賀川精神という同じ理念実現に努力する者として、お互いを思いあう組織であることを願います。(信)